AMELA JAPAN / DECISION TOOL 01

RFP・面談・契約レビュー

オフショア開発会社の選定シート

「対応可能」の先まで確認する20項目

質問・証拠・注意したい回答で、契約前のリスクを見つける

この資料で確認できること

体制 / PM・BrSE / 品質 / セキュリティ / AI利用

料金の内訳 / 知的財産 / 終了時の移管 / 顧客側の準備

2026.08 / v2.1 / amela.co.jp

AMELA JAPAN

HOW TO USE

提案書だけでは見えないものを、証拠まで確認する

エンジニア数、対応技術、単価は比較しやすい情報です。ただし、プロジェクトが止まる原因は、提案書に書かれていないことの中にあります。

案件名		候補ベンダー	
評価者		評価日	

- 誰が仕様を決めるのか
- 提案時のメンバーが本当に参加するのか
- 品質問題を、いつ、誰が、どの基準で止めるのか
- メンバーが交代したとき、知識はどこに残るのか
- 契約終了時、コード・データ・アカウントをどう戻すのか

各項目を0〜2点で評価します

2点	証拠を確認済みで、責任者・方法・条件が要求を満たす（Pass）
1点	証拠を確認済みだが条件差が残り、対策・責任者・期限が必要（Conditional）
0点	証拠未確認、回答なし、または許容できない条件（Fail）
N/A	任意項目のみ。適用しない理由と承認者をEvidence Logに記録

重要	**必須項目にN/Aは使いません。必須が0点ならNo-Go、1点なら対策・責任者・期限を条件にConditional、すべて2点ならProceed候補です。合計点はHard Gate通過後の比較だけに使います。**

RFPでは質問をそのまま使用し、面談では『確認する証拠』の提示を依頼してください。価格条件と運営・セキュリティ上のリスク条件を分けて記録すると、比較理由を説明しやすくなります。

© 2026 AMELAジャパン株式会社 | v2.1 | 社内比較・RFP・面談でご利用ください

A プロジェクトとの適合性

#	確認する質問	確認する証拠	注意したい回答	評価	証拠ID
1	類似案件で、ベンダーが担当した範囲はどこか	体制、期間、担当工程、顧客側の役割が分かる事例	業界名と技術名だけ	-	E01
2	今回の目的と成功条件をどう理解しているか	目的、利用者、優先KPI、対象外をまとめた提案	要件書の言い換えだけ	-	E02
3	仕様変更が多い場合、契約と開発計画をどう扱うか	変更フロー、判断者、見積りルール	「アジャイルなので柔軟」だけ	-	E03
4	小さく開始する場合、何を検証してから拡張するか	初期検証の評価項目、母数、判断日、拡張・停止条件	人数と開始日しかない	-	E04

B 人とコミュニケーション

#	確認する質問	確認する証拠	注意したい回答	評価	証拠ID
必須 5	提案されたメンバーは実際に参加するか	候補者、役割、経験、稼働率、開始可能日、交代条件	契約後に決める	-	E05
6	PM／BrSEは、誰の判断をどこまで支援するか	RACI、定例会サンプル、エスカレーション図	「日本語で対応可能」だけ	-	E06
7	質問への回答が遅れた場合、開発をどう進めるか	質問管理、判断期限、仮定の記録方法	会議を増やすだけ	-	E07
8	増員・減員・交代に必要な時間と条件は何か	増員期間、引継ぎ、費用、代替要員、事業継続手順	「柔軟に対応可能」だけ	-	E08

© 2026 AMELAジャパン株式会社 | v2.1 | 社内比較・RFP・面談でご利用ください

C 品質と予測可能性

#	確認する質問	確認する証拠	注意したい回答	評価	証拠ID
必須 9	完成を何で判断するか	受け入れ条件、Definition of Doneの例	テスト完了＝完成	-	E09
10	レビューとQAは、いつ、誰が、何を確認するか	レビューチェックリスト、テスト計画、責任者	「QAチームあり」だけ	-	E10
11	遅延や品質悪化を、どの指標で早期発見するか	Sprint report、欠陥傾向、手戻り、予測差	最終納期だけを管理	-	E11
必須 12	重大な問題が起きたとき、誰が止めて誰に報告するか	Severity、判断権限、報告テンプレート	営業担当のみが窓口	-	E12

D セキュリティ・AI・事業継続

#	確認する質問	確認する証拠	注意したい回答	評価	証拠ID
必須 13	コードとデータにアクセスできる人・拠点・再委託先はどこか	Access matrix、拠点、端末、ログ、再委託一覧	認証名だけを提示	-	E13
必須 14	AIツールをどの工程で使い、何を外部サービスへ送るか	承認済みツール、入力禁止情報、人による確認、ログ	「AIで生産性向上」だけ	-	E14
必須 15	セキュリティ事故の初動、通知、証拠保全はどう行うか	対応手順、連絡先、通知期限、ログ保全、DPA条項	契約後に協議	-	E15
必須 16	障害・災害・要員不足でも継続する条件は何か	BCP、代替拠点、復旧目標、データ所在地、監査記録	社内規程があるだけ	-	E16

E 知識・契約・移管

#	確認する質問	確認する証拠	注意したい回答	評価	証拠ID
必須 17	コード、設計、チケット、テスト結果を誰が所有・閲覧するか	リポジトリ、文書、クラウドの管理責任者一覧	ベンダー環境だけで管理	-	E17
18	料金に含まれる役割・稼働・品質活動は何か	役割別内訳、含む／含まない作業、追加費用、価格改定条件	開発者単価だけ	-	E18
必須 19	知的財産、OSS、第三者素材をどう扱うか	準拠法、知的財産条項、SBOM、OSS・第三者素材の管理方針	「成果物はすべて納品」だけ	-	E19
必須 20	終了時に何を、いつ、どの形式で移管するか	Exit checklist、移管期間、費用、削除証明	終了時に相談	-	E20

次の面談までに依頼する資料

『確認済』はEvidence Logに記録し、口頭回答だけでは採点しません。

状態	資料群	確認する内容	責任者	期限
-	提案チーム	候補者・役割・経験・稼働率・開始可能日・交代条件		
-	運営方法	RACI・意思決定期限・定例会・エスカレーション		
-	品質管理	受入条件・レビュー・QA・品質／予測性レポート		
-	セキュリティ／AI	アクセス表・再委託・データ所在地・AI利用・DPA		
-	BCP	代替要員・代替拠点・復旧目標・連絡網		
-	契約／終了時移管	知的財産・OSS・価格改定・Exit checklist・削除証明		

EVIDENCE LOG 1 / 2

E01〜E10：採点に使った証拠を残す

質問の右端にあるEvidence IDと同じ行へ、保存先、版、確認者、確認日、結論を記録します。一つの質問に複数資料がある場合は、同じ欄に列挙してください。

ID / Q	証拠名・URL・版	確認者	確認日	結論・不足	確認
E01 Q1					-
E02 Q2					-
E03 Q3					-
E04 Q4					-
E05 Q5					-
E06 Q6					-
E07 Q7					-
E08 Q8					-
E09 Q9					-
E10 Q10					-

記入ルール

2点または1点を選ぶには該当IDが『確認済』であること。『不足』『却下』『未記入』は0点として扱います。

EVIDENCE LOG 2 / 2

E11〜E20：採点に使った証拠を残す

質問の右端にあるEvidence IDと同じ行へ、保存先、版、確認者、確認日、結論を記録します。一つの質問に複数資料がある場合は、同じ欄に列挙してください。

ID / Q	証拠名・URL・版	確認者	確認日	結論・不足	確認
E11 Q11					-
E12 Q12					-
E13 Q13					-
E14 Q14					-
E15 Q15					-
E16 Q16					-
E17 Q17					-
E18 Q18					-
E19 Q19					-
E20 Q20					-

N/Aとした任意項目・採用しなかった証拠の理由／承認者

機密性・閲覧範囲・次回確認日

CLIENT READINESS

Vendor評価と、顧客側の開始準備を分けて確認する

オフショア開発の認識差は、ベンダー側の問題だけではありません。顧客側の判断者、回答期限、権限、拡張条件が曖昧な場合も、開発は止まります。

顧客側で決める四つのこと

#	顧客側で決めること	責任者	期限	状態	証拠・決定記録
01	**優先順位と受け入れを決める** プロダクト責任者を一人に決める			-	
02	**回答期限を過ぎた質問の扱い** 仮定・保留・エスカレーションを決める			-	
03	**アクセス権限の承認** 最小権限と緊急時の承認者を決める			-	
04	**拡張・見直し・停止の判断日** 小規模開始の評価項目と判断者を決める			-	

開始準備の未解消事項

AMELAとの確認にも、この20項目をそのままお使いください

専属開発チームを検討する際は、要件を伺ったうえで、役割、必要スキル、顧客側の担当、最初の評価項目を整理します。

amela.co.jp/service/odc-development-center

※ 本シートは比較検討を支援するための資料です。個別の体制・期間・料金・セキュリティ条件は、要件と契約内容に応じて確認します。

RESULT 1 / 2

合計点より先に、必須項目のHard Gateを判定する

2点・1点はEvidence Logが『確認済』の場合だけ有効です。必須項目はN/Aにできません。

適用項目数		獲得点		最大点	
得点率		0点数		証拠未確認数	

得点率 = 獲得点 ÷ 最大点。N/Aの任意項目は適用項目数と最大点から除外します。得点率はHard Gate通過後の比較にだけ使用します。

必須項目のHard Gate

Q	証拠	判定	残る条件・根拠	責任者	期限
Q5	E05	-			
Q9	E09	-			
Q12	E12	-			
Q13	E13	-			
Q14	E14	-			
Q15	E15	-			
Q16	E16	-			
Q17	E17	-			
Q19	E19	-			
Q20	E20	-			

Hard Gate	Failが一つでもあればNo-Go。Conditionalには確認済み証拠、残る条件、責任者、期限が必要。すべてPassならProceed候補。

RESULT 2 / 2

Vendor判断と開始準備を、別々に確定する

Vendorの選定判断と、実際に開始できるかという顧客側Ready判断は別々に記録します。

Conditional項目と非必須の重要条件

Q	条件・リスク	対策／契約・Pilot反映	責任者	期限	リスク受容者

No-Go	必須項目にFail、証拠未確認、または未承認N/Aがある
Conditional	必須にFailなし。Conditionalごとに確認済み証拠・対策・責任者・期限がある
Proceed	必須項目がすべてPass。残る非必須条件を契約またはPilotへ反映

Vendor判断	-	承認者		決定日	
開始準備	-	リスク受容者		次回判断日	
決定理由					